

氏名：道日娜（ドリナ）

氏名のローマ字表記：DAORINA

所属：東京外国語大学大学院 総合国際学研究所 博士後期課程

専門分野：国際社会・教育学

発表のタイトル：モンゴル人大学生と就職—内モンゴルフフホトでの調査を中心に

発表要旨（600字～800字程度）：

中国の教育部によると、2016年の高等教育の進学率は42.7%に達し、2019年までに大学進学率は5割を上回り、高等教育の普及段階に突入すると予想している。少数民族の場合、大学入試における優遇政策(加点政策)の実施や民族クラス、民族予科クラスの設置により、高等教育機関への入学を保証している。このように高等教育機会が大きく拡大された。しかしながら、就職難問題は解決できていない。特に、民族語で教育を受けた少数民族大学生は就職活動では苦戦している。

内モンゴルの場合、モンゴル語で教育を受けた大学生の就職難問題を解決するために、政府は公務員の試験において加点し、モンゴル人学生を積極的に採用する政策を取っている。にも関わらず、モンゴル人学生の就職の実態は楽観視できない。大学卒業して三四年経っても仕事が見つかることがなく、何年間も続いて公務員の試験を受ける人がすくなくない。そのため、内モンゴルフフホトでは、モンゴル人大学生のための公務員試験対策指導講座が増え、公務員試験産業が盛んになっている。しかし、内モンゴルの民族教育に関する先行研究は多くみられるが、モンゴル人大学生の就職の実態は明らかにされていない。

そこで、本稿では、このような問題意識のもとで、大学よる公式の就職データを概観した上で、2019年8月23日からフフホトで行なったモンゴル人大学生及び関係者への半構造化インタビュー調査の結果を分析し、モンゴル語で教育を受けた大学生の就職実態を明らかにし、その就職意識及び就職難の原因を探ってみたい。また、就職活動において、大学で学んだ知識或いは、モンゴル語、漢語、英語がどのように生かされたかもあわせて検討する。